アメリカザリガニの渡来経路及び昨年に於ける分布調査

福井大学文芸学部学生　伊藤十治

アメリカザリガニの渡来経路については、大正13年に日本へ移入されたが昭和7年だとか、昭和5年だとか、色々まちまちの報告がある。そこで一体どこに原因が有るかと文献をさがして見ると、2つの系統を混同して居るからだと思う。三宅貞祥博士は昨年の日本動物学会に於いて、この2つの系統に、1つは青森、岩手、山口、長崎、大分、宮崎、鹿児島の各県を除く本州西国、九州の広範囲に分布して居るアメリカザリガニ Cambarus clarkii (GIRARD)と、他の1つは現在北海道の摩周湖及び支笏湖と琵琶湖の一部に残存して居ると言われて居る淡水大蝦 Astacus sp. で Cambarus clarkii (GIRARD) は昭和5(1930)年6月米国の Louisiana 州より20尾を神奈川県に、Astacus sp. は農林省が大正15(1926)年10月11日及び昭和2(1927)年7月22日の2回に亘り、米国の Oregon州より約1800尾を遠学に都道府県の水産試験場14ヶ所に配布したものであると報告されて居られる。

次に福井県に於ける渡来経路に就いては、Organiliger(福井大学生物研究会誌)の創刊号に報告した通り、三つの方面から各々別々に移入されて居る。即ちその一つは足羽郡社村南居に5尾で移入年月日、移入先は不明である。しかし県農事試験場の友永先生は、昭和2～3年頃某水産試験場よりと報告されて居るが、本県に分布して居るのは、三宅貞祥博士に同定をお願いしてはっきりと Cambarus clarkii (GIRARD) と決定して居る以上同意出来ないのである。他の一つは遠敷郡鳥羽村大鳥羽に昭和15～16年の2回に亘り、京都府から10数尾移入して居る。もう一つは小浜市西津に昭和12～13年頃、浜松から20数尾移入している。

最後に本県に於ける本種の分布を見ると、昭和22年度には福井市をはじめ15ヶ市町村におよび、その被害面積は340町歩であると県農業会調査の報告がある。即ち福井市、社、麻生津、六條、東郷(足羽郡)、東藤島、下文殊、天津、三方(丹生郡)、西安居、立待、神明町、中河、舟津、新横江の各地である昭和25年11月迄の調査(県農事試験場)によると新に分布したのは、浜四郷、大石、春江町、吉川、鳥羽、瓜生、国高、小浜市、国高、北新庄、北中山、片上の12ヶ町村で昭和26年には、豊、森田の各町村に分布し、更に昨年には、鯖、大安寺、本郷、棗、中藤島、鯖江町、岡保、酒生、上文殊、王子保の10ヶ町村である。

そこで演者は、昨年県農事試験場の助協力を得て分布調査を行い、次のような結果を得たのである。

1　区域全体に繁殖して居る市町村。

多とする所

立待、天津、三方(丹生郡)、麻生津、社、六條、福井市、春江町、大石、鶉、浜四郷、瓜生、鳥羽の13ヶ市町村。

中とする所。

西安居、大安寺、本郷、棗の4ヶ村。

少とする所。

下文殊村。

2　区域の大部分に繁殖して居る町村

森田町、中藤島、東藤島、東郷(足羽郡)、片上、神明町、中河、鯖江町、新横江、吉川の10ヶ町村。

3　区域の一部に繁殖し他の所で稀に見られる市村

小浜市、岡保、酒生、上文殊、豊、北新庄、王子保の7ヶ市村。

尚分布についての色々の考察は他の機会に報告したい。

化学薬品の植物体細胞分裂に及ぼす影響

平泉寺中学校　島山敬二

1　緒　言

コルヒチンが細胞分裂を撹乱する事は、30年前からすでに知られているがこれを細胞学的に確めたのは、Levan(1938)で有ります。以後多くの学者がこの研究を始め、現在その影響を知られて居るものが20種有ります。筆者も植物ホルモンに興味を持ち始めて、この道にはりこんでしまいました。こゝに書かれて居る3種類の薬品の体細胞分裂に及ぼす影響についての研究は、ヱナフタリ酢酸(1949)による研究、コルヒチンによる研究(1950年)、メルクロンによる研究(1951)等、いずれも個々に行なわれたものを綜合して、こゝに論究をこゝろみたので有ります。

ウスプルン研究も有るのですが、メルクロンの場合と異なる所が少くないので省略しました。

2　材料及び研究方法

研究材料は、いずれの薬品にも、Vicia.Fava.Lを用い(n=6.2n=12)発芽後、根が1cm以上伸びたものをあみを通して根の部分だけ各濃度に浸漬する方法を取つた。供試薬品は、コルヒチン・ヱナフタリン酢酸・メルクロン等を用い、処理濃度は0.01%・0.005%・0.002%・0.001%無処理の5区を作つた。